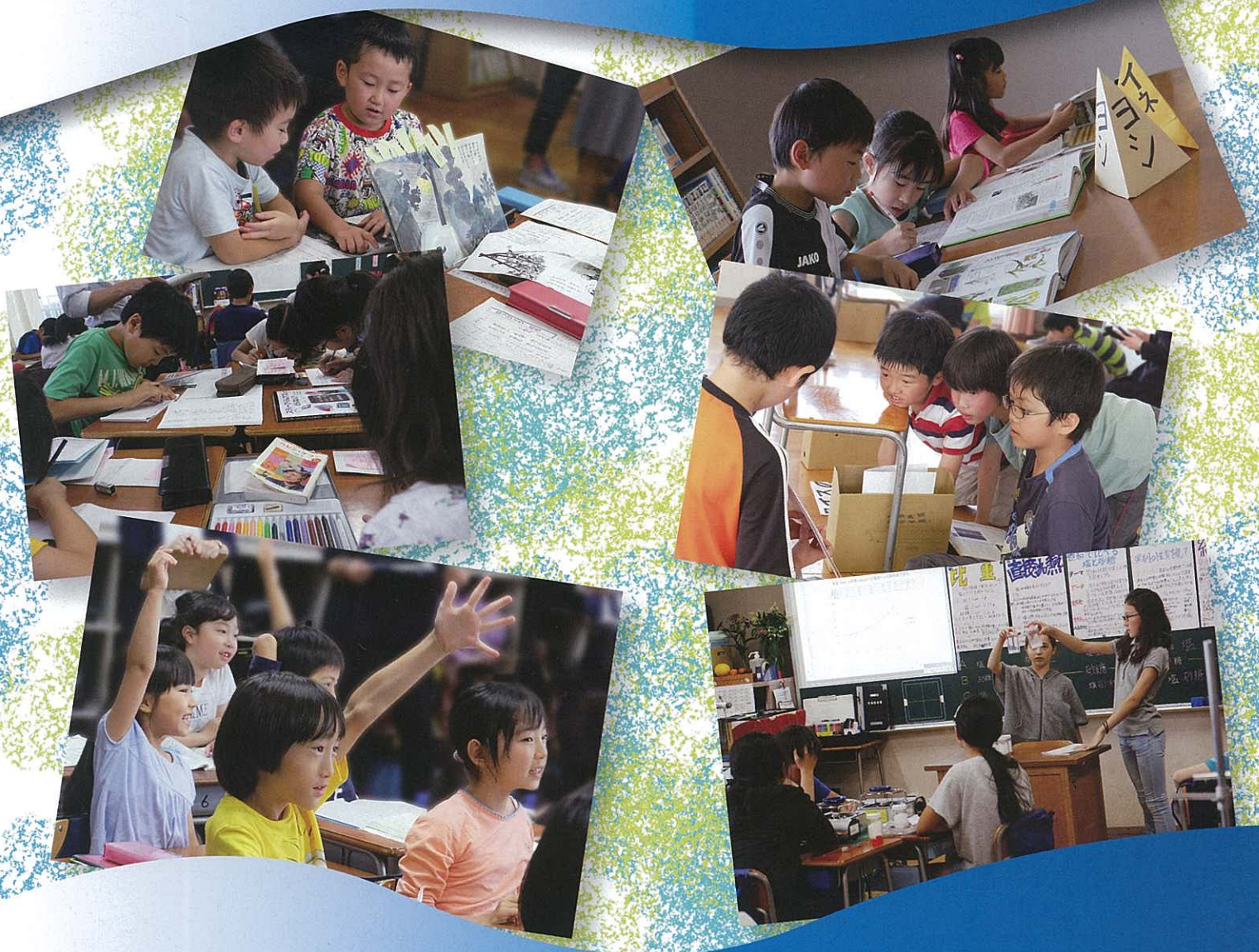


平成26・27年度 東京都教育委員会言語能力向上拠点校
平成26・27年度 武蔵野市教育委員会教育課題研究開発校

研究主題

読みたい! 調べたい! 伝えたい!

～学校図書館を活用した言語活動の充実～



武蔵野市立第四小学校

読書は児童の健やかな成長のために欠かすことのできないものです。読書を通して、世界の広さを知り、社会を見る目を養い、自分の考えを広げ、深めることができます。

第三次東京都子供読書活動推進計画では、目標の一つに「読書の質の向上」が掲げられ、本から得た情報や事柄から考えを深め、自分の言葉で相手に伝えられるようになることが求められています。市教育委員会では、学校図書館の蔵書の充実を図り、全市立小中学校に「学校図書館サポーター」を配置しています。さらに、小学校第3学年を対象に市立図書館と連携して「読書の動機づけ指導」を行うなど学校図書館の利用促進を支援しています。

このような中、第四小学校では、平成26・27年度東京都教育委員会言語能力向上拠点校、武蔵野市教育委員会教育課題研究開発校として「読みたい！調べたい！伝えたい！～学校図書館を活用した言語活動の充実～」を研究主題に設定し、精力的に研究に取り組んでいただきました。

本研究では、児童の問題解決能力や、主体的に学び合う姿勢を育むことを目指し、学校図書館の活用や言語活動の充実を図ってきました。その中で、国語を中心とした各教科等における図書資料の活用をはじめ、学校図書館サポーターと連携した学校図書館活用や、「四小おすすめの50冊」の掲示など言語環境の整備に取り組んできました。また、情緒障害等通級指導学級における指導の工夫を低学年の読み書き指導や中学年の漢字学習に取り入れました。

これらの取組により、読書活動に対する意欲が高まり、学習課題について図書資料を基に調べ、分かったことなどを伝え合う姿が見られるようになったと伺っております。今後、本研究の成果が広く市内外の教育実践に寄与されることを心より願っております。

結びに、本研究の推進に御尽力をいただきました河村祐好校長先生はじめ教職員の皆様の御努力に心から感謝申し上げますとともに、本研究のために温かい御指導・御助言を賜りました講師の先生方に厚く御礼申し上げます。

今更私が申し上げるまでもなく、言葉は大きな力をもっています。17歳でノーベル平和賞を受賞したマララ・ユスフザイさんの演説が、多くの人の胸を打ったことは記憶に新しいところです。一方、使い方を誤れば、振り込め詐欺のように人をだましたり、陥れたりする道具になってしまいます。

言葉は、論理や思考など知的活動の基盤であると共に、コミュニケーションや感性、情緒の基盤でもあり、豊かな心を育てる上でも大切なものです。次代を担う子供たちには、「主体的に物事に関わろうとする力」「誰とでも良好な人間関係を築く力」「課題を解決する力」「情報を活用する力」「グローバル化に対応する力」などが、これまで以上に求められています。これらの力を身に付けるためにも、子供たちの言葉の力を高めていくことはとても重要です。

本校では、学校図書館を活用し「読む・書く・話す・聞く」の活動を一層充実させることで、子供たちの言葉の力を高め、思考力や判断力、表現力、主体的に学習に取り組む態度など、先に述べたような力の向上を目指してきました。「読む・書く・話す・聞く」の活動を充実させる取組は、国語の時間だけでなく、全ての教科・領域で行ってきました。まだ、十分とは言えませんが、すすんで本を手に取り、様々なジャンルの本を読むようになったこと、課題を解決するために目的に合った本を探せるようになったこと、お互いに本を薦め合ったり、得た情報を教え合ったりする姿が見られるようになったことなど、だんだんと成果が見えてきました。

本校の研究を進めるにあたり2年間継続して熱心に御指導いただきました帝京大学文学部教授鎌田和宏先生と、研究を全面的に支援していただきました東京都教育委員会並びに武蔵野市教育委員会の皆様に深く感謝し、御礼申し上げます。また、いつも陰で支えてくださった保護者・地域の皆様に感謝し、今後も研究を深めていくことをここにお約束いたします。

研究構想図

学校教育目標

たくましい子 よく考える子
 思いやりがある子 進んで働く子

教育基本法、学校教育法、学校図書館法
 子どもの読書活動の推進に関する法律
 子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画
 文字・活字文化振興法
 小学校学習指導要領 総則
 第4-2-(10) 学校図書館の利活用
 第三次東京都子供読書活動推進計画

武蔵野市教育委員会教育目標
 第二次武蔵野市学校教育計画(H27~31年度)
 武蔵野市子ども読書活動推進計画

児童の実態

- 基礎的・基本的な知識・技能は、おおむね身に付けている。
- 読書活動については、好意的に捉えている児童が多い。
- 問題解決的な学習の流れを理解し、見通しをもって活動することができるようになってきている。
- 学習問題を明確にもち、解決のために必要な情報を選ぶ力、活用する力については、課題が見られる。

目指す児童像

情報を選んだり関連させたりしながら自分の考えを確かにし、伝え合い、学び合う児童

研究主題

読みたい！ 調べたい！ 伝えたい！
 ~学校図書館を活用した言語活動の充実~

研究仮説

学校図書館及び図書資料を有効に活用し、言語活動の充実を図ることで児童の問題解決能力を高め、主体的に学び合う児童を育てることができるだろう。

分科会の目指す児童像

低学年部

読むこと知ることを楽しみ、
 伝え合う児童

中学年部

読み調べたことを基に、分か
 りやすく伝え合うことがで
 ける児童

高学年部

自己の課題を明確にして読んだり、調べたり
 し、情報を選択したり、関連させたりしな
 がら伝え合い、学び合うことができる児童

研究の視点



読
 み
 た
 い
 !

- 『四小おすすめの50冊』の選定と活用法の工夫
- 単元と関連付けた学校図書館利用計画の作成と活用
- 日常の読書意欲を高める活動の工夫
- 重点単元の設定



調
 べ
 た
 い
 !

- 図書資料を活用した授業改善と単元の重点化
- 学校図書館サポーターと連携した教科・内容に応じた図書資料の精選
- 児童の問題意識を引き出す魅力的な学習課題の設定
- 調べた内容を記録する『情報カード』の活用



伝
 え
 た
 い
 !

- 言語活動にかかわる教員の共通理解と単元計画の見直し
- 学習活動・学習形態の工夫と多様な表現活動

児童の学びや読書生活を支える校内組織

環境整備部

- 学校図書館の整備
- 学級文庫の整理
- 学年、学級に共通した掲示資料の作成

読書活動推進部

- 学校図書館運営計画の見直し
- 読書旬間の取組の見直し
- 『四小おすすめの50冊』の活用

情報発信部

- 先行研究や他校の実践資料の収集と周知、指導の工夫についての提案
- 学校ホームページにおける研究成果の発信

「読みたい・調べたい・伝えたい」子供を育てる指導の重点と重点単元一覧（丸数字は学年を示す）

目指す 児童像	低学年		中学年	高学年
	読むこと知ることを楽しみ、伝え合う児童		読み調べたことを基に、分かりやすく伝え合うことができる児童	自己の課題を明確にして読んだり、調べたりし、情報を選択したり関連させたりしながら伝え合い、学び合することができる児童
読 み た い	指導の重点	読書活動を楽しむ	読書活動の幅を広げる	読書活動を通して考える
	手だて	読書行事 環境構成 『四小おすすめの50冊』 『読書記録カード』の活用 ブックトーク、アニメーションによる読書意欲の喚起と並行読書		
	資料の種類 ジャンル	昔話 動物が主人公の話	ファンタジー 戦争文学 シリーズものなどの同一作者の物語	実在の人物について書かれた本・伝記 「人間と自然との関わりのお話」などの同一テーマの物語
	言語活動	音読発表会 本の紹介（好きな場面） アニメーション（タイトルをつける）	読書交流会 本の紹介（物語のあらすじやおもしろさ）	本の帯やポップ作りによる本の推薦活動 読書座談会
重点単元名	① 国語 言葉のリズムや繰り返しの表現を味わう「おむすびころりん」 ② 国語 主人公を見つけて、紹介したりクイズを出したりしよう「スイミー」	③ 国語 場面のおつくりかたをとらえて感想をまとめよう「ちんちゃんのかげおくり」 ④ 国語 登場人物のからだをとらえ、話し合おう「白いぼうし」	⑤ 国語 広がる、つながる、わたしたちの読書「十年の針こぼれ」 ⑥ 国語 登場人物の関係をとらえ、人物の生き方について話し合おう「海の命」	
調 べ た い	指導の重点	本を読んで知ることを楽しむ	図書資料の調べ方の基礎を理解し、必要な情報を集めたり、選んだりする	自分の課題を明確にして情報を収集し、分類・整理しながら、その解決を図る
	手だて	問題意識や目的意識を明確にした学習過程と単元計画の工夫		
	資料の種類 ジャンル	ものの仕組みや作り方の本 科学的読み物	百科事典・図鑑・一般図書・統計	図書資料全般・インターネット
	言語活動	『じょうほうカード』に分かったことを書く	『情報カード』の基本を理解し、情報を集める	『情報カード』を活用して問題解決を図る
重点単元名	① 国語 「くちばし」「どうぶつのお赤ちゃん」 ② 国語 「たんぽぽのちえ」 【音楽】 「日本のうたを楽しもう」	③ 国語 本を使って調べよう「本は友だち」 ④ 総合的な学習の時間 「外国からのお客様」	⑤ 総合的な学習の時間 「出会い、ふれ合いセカンドスクール」 ⑥ 理科 「物質を見分けよう」 【社会】 「日本の歴史」	
伝 え た い	指導の重点	友達に伝えることを楽しむ	相手や目的に応じて伝え合う	伝え合うことで学び合う
	手だて	ペア学習の重視	→ グループ学習の重視	→ 小集団での学習から全体へ、全体から再び個人へ（個の充実）
	言語活動	紹介・発表	報告・説明・感想交流	推薦・プレゼンテーション・討論
	重点単元名	上記単元を通じて		

※「読みたい・調べたい・伝えたい」は、単元を作る上で重点としている活動です。これは、年間を通して、教科・領域、単元の目標や内容に応じてバランスよく行っていくもので、一つの単元で必ず三つの活動を行うというものではありません。教科・領域、単元によって異なります。例えば「読みたい・伝えたい」「調べたい・伝えたい→読みたい」など様々な場合があります。

単元の目標

○言葉には、意味による語句のまとまりがあることに気付くとともに、内容や文のリズムに注意し、想像を広げながら読むことができる。

具体的な手だて



- ブックトークによる導入やブックリストの作成による作品との出会いの工夫
- 学校図書館サポーターと連携した本の選定
- 音数を意識した学習
- 並行読書 読書カードの活用
- 児童が紹介した本の継続展示と読書時間の設定



- 児童の興味を引き付ける学習課題の設定
- 紹介するためのワークシートの使用
- 単元を貫く具体的な学習課題の設定
- 生活の様々な場面でリズムに触れ、音読する機会の設定

読 児童の意欲を高める導入の工夫

- ・導入時にブックトークを行い、出てきたリズムを声に出させたり、動作化させたりして読書への意欲を高めた。

読 読書活動へのさらなる意欲付け

- ・友達が紹介したリズムを繰り返し声に出して読み、リズムの楽しさを感じさせた。
- ・紹介をした後に、継続して展示し、友達が紹介した本を読む時間を確保した。

その本読ませて!



単元の流れ

①教師のブックトークを聞き、学習課題を設定し学習計画を立てる。

おはなしよんで みつけたよ
たのしいりずむ かんじたよ

②教材文「おむすびころりん」を読み、あらすじや登場人物の行動や様子を捉え、想像を広げながら工夫して音読する。

③選んだ本の中から自分が読みたい場面や役割を決める。

④選んできた本の中から紹介したいリズムが出てくる場面を選び、紹介の練習をする。

⑤楽しいと感じたリズムが出てくる場面を紹介し、学習を振り返る。

並行読書

読 表現力を高める工夫

- ・七音・五音で構成された教材文での学習を通して、語のまとまりや文章のリズムに気付かせた。
- ・行動や様子、気持ちが分かる言葉を見付けさせ、既習事項を振り返らせながら工夫して音読をさせた。



読 紹介の仕方の工夫

- ・本の中の紹介したい場面を見つけたら名前を記入した付箋を付け、再び開けるようにした。
- ・「はっぴょうめも」を基に、本の題名・作者・本の簡単な内容を記入させた。



この本おもしろいね。これもリズムかな?

児童の変容

- ・並行読書を行うことで、本の中から楽しいリズムが出てくる場面を探すなど、「目的をもって読む」ということが少しずつ意識できるようになってきた。
- ・本を読みたいという気持ちが高まり、これまで読んでいた本と違う種類の本も手に取り読むようになった。
- ・本を読んだり選んだりする時間を十分に確保したことで多くの本に触れ感想をもつことができた。その結果、児童同士が本を見せ合い、感想を伝え合う交流ができるようになった。

言語環境の整備や日常的な言語活動

- ・担任による日々の読み聞かせや、学校図書館サポーター、保護者による読み聞かせ
- ・朝読書の時間の設定と時間の確保
- ・読書記録カードの活用
- ・並行読書や、様々な種類の本の読み聞かせを取り入れた学習活動の工夫

単元の目標

○登場人物の行動を中心に人物の性格や場面の様子について想像を広げながら読み、話の展開の楽しさや表現方法の面白さを味わうとともに、好きな本を選んで紹介したりクイズを作ったりすることができる。

具体的な手だて



- ブックトークによる導入や、ブックリストの作成による作品との出会いの工夫
- 作品コーナーの設置等、学校図書館サポーターとの連携した読書環境づくり
- アニメーションの手法や並行読書を取り入れた学習活動
- 読書カードの工夫や感想を交流する時間の設定



- 「レオニがつくった主人公を見つけて紹介したりクイズを出したりする」という学習課題の設定
- 基本的な構成要素を入れた紹介カードの工夫
- 友達のよいところを見付けることができるような交流カードの工夫

読 教師のブックトーク

・導入時にブックトークを行い、児童の読書活動への興味・関心を喚起し意欲を高めた。



ふうん、レオ=レオニさんってそういう人なんだ。あつ、「あおくん」ときいろちゃん知ってるよ。

単元の流れ

①教師のブックトークを聞き、学習課題を設定し学習計画を立てる。

レオ=レオニがつくった主人公を見つけて紹介したりクイズを出したりしよう

②アニメーションを取り入れ、教材文の粗筋や主人公の特徴、心の変化、表現方法や題名の価値などを捉える。

③「スイミー」の主人公紹介カードを書く。

④同一作者の比べ読みをする。

⑤読んできた作品の中から紹介したい主人公を選び紹介カードに書く。また、新たなサブタイトルを付ける。

⑥友達の紹介のよいところを伝え合う。

並行読書

読 アニメーション（お話がばらばら）

・順不同になった絵と文章を元通りに並び替えることで、挿絵をつないで大まかな構成を捉え、粗筋をまとめられるようにした



こういう順番だと思います。それは、～だからです。

読 アニメーション（私のタイトル世界）

・作者がどうしてこの題名にしたか考えたり、話の中心をとらえたりしながら、新しいタイトルをつけるようにした。自分の考えがまとまらない児童には、個別に言葉掛けを行い、支援した。



「じぶんの色を生かした魚」「おいだせ、まぐろを!」「みんなちがうほうがもっといい」すてきなタイトルが集まったね。

読 紹介カード・交流カードの工夫

・作品を紹介する基本的な構成要素を入れた紹介カードを用意した。
・紹介し合った作品を次の読書に広げていくために、メッセージカードを用いて友達のよいところを見付け交流するようにした。



メッセージカード
きんこ
のしゅんこうのことがよくわかるように、くわしく書けていた。(〇)
のあらずじやないのこったこととそ
そのちゆうがわからずに書けて
いた。(〇)
〇あなたのおすすめの本を読んでみ
たいと思つた。(〇)
イモトセージ

紹介してくれた本を読みたくなったよ。

児童の変容

- ・アニメーションを授業に取り入れたことにより、児童は好奇心をもち楽しみながら粗筋や人物の特徴、題名の価値などをとらえ物語の世界を探索した。さらに自分から本を手にとってみようという読書意欲が高まった。
- ・レオニ作品に親しみ、単元の学習中も、単元が終わってからも同作者の作品を読み進める児童が多かった。
- ・作品のおもしろさを十分に味わわせることで、物語を読むことの楽しさを実感し、喜んで本を紹介したり、感想を伝えたりする姿が見られるようになった。

言語環境の整備や日常的な言語活動

- ・担任による日々の読み聞かせや、学校図書館サポーター、保護者による読み聞かせ
- ・朝読書の時間の設定と時間の確保
- ・読書記録カード・情報カードの活用
- ・並行読書や、様々な種類の本の読み聞かせする等の授業展開の工夫
- ・百人一首の取組

単元の目標

○里山や動植物に興味をもち、いろいろな本や文章を読むとともに、目的に合った本を選び、すすんで調べ、伝えることができる。

具体的な手だて

読みたい!

- 今森光彦さんの作品との出会いの工夫
- 児童が本を読みたくなるような環境づくり
- ブックリストの作成
- 学校図書館サポーターと連携した本の選定

調べたい!

- 調べる方法を知るための工夫
- 自分が興味をもったテーマの選定
- 目的にあった本を複数読むことができるよう学校図書館に本を配置

伝えたい!

- 情報カードの活用
- 調べ、分かったことのクイズ化と発表活動
- 興味の幅を広げるためのグループ編成

調 並行読書

・今森光彦さんの作品や里山の生き物等について、時間をかけて読ませることで読書への意欲を高めるようにした。



分からない言葉は国語辞典を使って調べよう。

単元の流れ

- ① 写真を見ながら、イメージを広げる。教材文を読み、調べることを決める。
- ② 単元を通した学習課題をもつ。
さとやマスター★になろう。
- ③ 学校図書館の工夫を見付ける。
- ④ 百科事典を使って言葉調べをする。
- ⑤ 事典や図鑑、科学読み物等の使い方や調べ方を考える。
- ⑥ 「分類番号当てクイズ」をする。
- ⑦ 知りたいことを学校図書館で調べる。
- ⑧ 「里山に関するクイズ」を出し合う。

並行読書

調 調べる方法を知るための工夫

・ゲストティーチャーを招いて、百科事典の使い方を知ること、知りたいことを効率よく調べるための方法を理解させた。



はじめは、百科事典で調べよう。

図 情報カードの活用

・『情報カード』の書き方を提示した。
・『情報カード』を見ながらクイズが出せるように短い言葉でまとめるようにした。



どれをクイズにしようかな。クイズを出しやすいようにまとめ方を工夫しよう。

図 興味の幅が広がるグループ編成

・様々なテーマや内容でクイズを出し合えるように、異なるテーマでグループ編成をした。



児童の変容

- ・自分で調べたり、分かったことを基にしてクイズを出し合ったりすることで、図鑑だけではなく科学読み物なども手に取り読書の幅が広がった。
- ・今森光彦さんが撮った写真を見せながら教材文を読ませることで、里山に興味をもち、様々な本を手にとって調べようとしていた。
- ・異なるテーマでのグループ編成をすることにより、自分が調べて分かったことをすすんで友達に伝えようとする姿が見られるようになった。

言語環境の整備や日常的な言語活動

- ・朝の時間を活用した読書時間の設定
- ・並行読書や様々な種類の本を読み聞かせる活動等の意図的、計画的な実施
- ・読書の幅を広げるための読書記録カードや情報カードの活用

単元の目標

○身近なものを通して、外国への興味・関心を高めるとともに、調べ、分かったことを発表することで、自分の意見や考えを相手に伝えることができる。

具体的な手だて

- 読みたい!
 - 学校図書館サポーターと連携した本の選定や図書コーナーの設置
 - 本の内容を見せながら発表を聞かせることによる読書意欲の向上
- 調べたい!
 - 百科事典の使い方やインターネット資料の検索方法についての指導
 - 『情報カード』の工夫
- 伝えたい!
 - 児童一人一人が活躍できる様々な発表の場の設定
 - 調べたことへの関心が更に深まるグループ編成

調 『情報カード』の活用

・必要だと思ふ部分を『情報カード』に書いてまとめさせることで、ポスターに書く内容を決めながら調べられるようにした。

この部分はみんなに伝えたいな。ポスターに書こう。



調 調べ方の指導

・調べたいと思ったことを早く正確に調べられるよう、インターネット資料を検索する際の言葉の選び方を指導した。



調べるときは、「アメリカ 食べ物」のようにキーワードで検索してみよう。

単元の流れ

①単元を通した学習課題をもつ。

外国からのお客さまをむかえよう。

②関心をもった国について本で調べ、情報カードを活用しながらポスターにまとめる。

③友達に調べたことを発表する。

④外国の方との交流会の準備をする。

⑤日本について伝えたいことを調べてグループごとにまとめる。

⑥交流会を行い、分かったことをグループごとに交流する。

調 本の内容を見せながらの発表・使った本を見せながら発表をさせることで、友達が使った本への興味・関心を高めるようにした。



図 「伝えたい」という意欲を高めるグループ編成

・同じ、または似たテーマで発表し合えるようグループ編成を工夫した。



国が違っても全然食べているものが違うな。

違う国でも似た文化があるんだね。



児童の変容

- ・本を見せながら発表を行ったことで、発表後に進んで友達の選んだ本を読む姿が見られた。
- ・図書コーナーを設けることで、児童が興味・関心を持ち、「知りたい」「調べたい」という気持ちを高めることができた。休み時間や朝読書の時間にも図書コーナーの本を読む姿が見られた。
- ・似たテーマの児童で発表グループの設定をしたことで、相違点や共通点を考えながら発表を聞くことができた。また、同じテーマについて書かれている友達に紹介された本も、すすんで読むことができた。

言語環境の整備や日常的な言語活動

- ・朝の時間を活用した読書時間の設定
- ・図書資料を用いた調べ学習や、様々な本の紹介活動
- ・読書の幅を広げるための『読書記録カード』や『情報カード』の活用

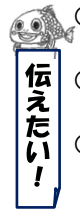
単元の目標

○人物の生き方や考え方を読み取るとともに、友達に本を薦める活動に興味をもち、すすんで本を読んだり、本の帯を作ったりすることができる。

具体的な手だて



- 教師のブックトークによる導入
- 学校図書館サポーターと連携した本の選定
- ブックリストの作成と配布による、児童の読書意欲の喚起
- 友達が推薦した本の展示と、それらを読む時間の確保



- 「本の帯を作って友達に推薦する」という学習課題の設定
- 教材文との並行読書による、帯に書く内容や表現方法の工夫についての理解
- 児童が身近に感じたり、その生き方に共感したりできるような人物について書かれた本を意図的に用意

読 教師のブックトーク

- ・学習課題に沿ったテーマでブックトークを行い、児童の読書活動への意欲を高めた。



伝記や実際にいる人の本もおもしろそうだな。

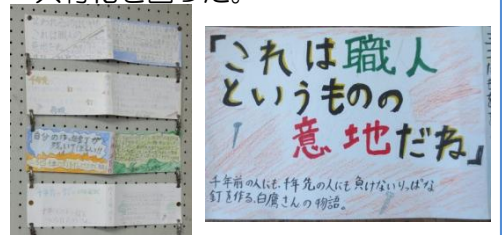
単元の流れ

- ①「人物の生き方や人生を描いた作品」をテーマにしたブックトークを聞く。
- ②単元を通した学習課題をもつ。
人物の生き方や人生について書かれた本を読んで、「本の帯」を作って推薦しよう。
- ③教材文を読んで人物の生き方や人物像についてまとめ、よりよい本の帯の作り方を理解する。
- ④自分の推薦したい本の帯を作り、推薦し合う。
- ⑤友達が推薦した本を読み、感想を交流する。

並行読書

図 教材文と並行読書による指導

- ・人物の生き方が表れる一言への焦点化を図った。
- ・読み手を意識した表現方法の工夫の共有化を図った。



読 帯を用いた本の推薦

- ・友達が作った帯を自由に見合ったのち、全体での発表の時間を設定した。
- ・自分が共感した、人物の生き方や考え方を中心に推薦させた。



この人のこの言葉って、すごいと思いませんか。

読 推薦した本の展示と読書時間の設定

- ・友達が推薦した本を自由に読むことができるように、教室に継続展示した。



児童の変容

- ・実在の人物について書かれた本に対する興味・関心が高まり、読む本のジャンルが広がった。本単元が終わってからも、これらの本を読み進める児童が多かった。
- ・人物の生き方が表れる一言を生かして本の帯を作らせることで、人物の生き方や考え方に焦点を当てて本を読むことができ、また、その人物に共感したり、自分の将来について考えたりする姿が見られた。
- ・自分がおもしろいと思った本を、自分からすすんで友達に薦めたり、本を見せたりする姿が見られるようになった。

言語環境の整備や日常的な言語活動

- ・朝読書から始まる学校生活
- ・学校図書館の貸し出し記録による自己の読書傾向の振り返り
- ・「読書記録カード」の掲示
- ・季節の言葉を利用した学習活動（俳句、短歌、散文など）
- ・昔の暦の掲示
- ・短歌に慣れ親しませるための百人一首の取組

単元の目標

○A・Bの2つの物質を多面的に調べ、推論を基に実証（観察や実験）しながら、それぞれの物質を確定することを通して、物質に対する見方や考え方を深める。

具体的な手だて



読みたい！

- 教室内に単元学習に関する実験・観察特設コーナーを設置
- 粒子学習に関する作品を展示したり、関連する図書資料を置いたりし、解説・投稿欄に、自由にコメントをできるように配慮



調べたい！

- 児童が「知りたい。」「調べたい。」と思えるような自然事象の提示と問題(課題)設定
- 図書資料を活用し、必要な情報を調べることによる効率的な実験計画と実証実験



伝えたい！

- 知りたいこと調べたいことを明確にし、必要な情報を共有するための掲示物やICTを活用したプレゼンテーション
- 複数の実験結果の情報交換と多面的な考察を通じた問題解決学習

調 児童が知りたいと思う問題の設定
・物質A・BとC(A・B共に類似)を提示し、じっくりと観察させ、物質への興味・関心を高めさせた。



どちらが塩とどちらが砂糖かな。どうやったら見分けられるかな。

調 様々な方法による実験計画の立案
・これまでの学習経験や生活経験から実験方法を考えさせた。

実験例)・寒冷(作用)剤・蒸発乾固・飽和量(溶解度)・比重比較・結晶観察・直接加熱 等

・必要な情報を図書資料で調べ、効率的な実験方法を計画させた。

図書資料で調べたら、塩の比重は2.13gで、砂糖は1.63gでした。

だから、同じ量(かさ)の重さを測ったときに、重い方が塩になります。



単元の流れ

①物質A・Bを提示し、学習課題をもつ。

食塩と砂糖を見分けよう。

②塩と砂糖を見分ける方法を話し合う。

③見分けるために必要な情報を調べる。

④調べた情報をもとに、効率的で分かりやすい実験方法を計画し、必要なものを準備する。

⑤班ごとに実験を行い、物質A・Bについて考えをもつ。

⑥結果について情報交換する。多面的に考察しA・Bの物質を同定して、問題を解決する。

図書資料の活用(推論と考察の根拠)

図 多面的な見方で問題を解決する
・班の実験結果を情報交換させ、それぞれの結果や考察をもとに、物質を同定した。



結晶の形は、Aが四角いから塩だけれども……、Bも四角いなあ？

Bは、すべて溶けて、Aは溶け残ったので、Aが塩と考えました。



班ごとに意見が違うな。それぞれの結果に基づいてみんなで考えてみよう。

児童の変容

- ・情報を得るに当たって、図書資料やインターネットのそれぞれのよさを生かし、必要な情報(科学的根拠)を選択し、効果的に活用して、学習活動に取り組めるようになった。
- ・1つの事象を様々な角度から多面的に見て、推論しながら実証する学習活動をすることにより、問題解決型の学習の面白さに気付いたり、身近な自然事象に関するものの見方や考え方が深まったりした。
- ・学習したことや読書した内容を基に、科学コーナーや読書紹介コーナーなどを主体的に作り、学級や学年の友達に広く情報を提供するようになった。

言語環境の整備や日常的な言語活動

- ・朝読書から始まる学校生活 ・読書記録カードによる本の紹介と交流 及び相互評価 ・班等の新聞の共同作成
- ・三文(散文)日記 ・国語「季節の言葉」を利用した発展的学習活動(俳句、短歌、絵手紙、習字など)
- ・班での調べ学習とレポートの作成 ・ポートフォリオの作成 ・様々な形式を活用したプレゼンテーション

学校図書館や図書資料を活用した授業(4・5・6学年)

学年	学習の重点	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
4年	読みたい	国語科 『白いぼうし』 シリーズで読んで、松井さんの人柄を考えよう		国語科 『一つの花』 戦争を題材にした物語を読んで紹介しよう			国語科 『ごんぎつね』 新美南吉の本を読み比べて感想を交流しよう			国語科 『ウナギのなぞを追って』 テーマを決めて科学読み物を読もう		
	調べたい	伝えたい	総合的な学習の時間 『外国からのお客さま』 外国について調べよう			理科 『星や月』 星や月について調べよう	総合的な学習の時間 『出会い・ふれ合い・プレセカンドスクール』 作品について調べよう	総合的な学習の時間 『出会い・ふれ合い・プレセカンドスクール』 プレセカンドスクールについて伝えよう		社会科 『わたしたちの東京都』 都道府県の特徴を調べよう	総合的な学習の時間 『いっしょにくらそう〜バリアフリーを考える〜』 福祉やボランティア活動について調べよう	
5年	読みたい			国語科 『本は友達』 おすすめの本を推薦しよう				国語科 『大造じいさんとガン』 他の作品を読み比べ、推薦しよう			国語科 『わらくつの中の神様』 他の作品と読み比べ、作品の特徴を見つけよう	
	調べたい	伝えたい	総合的な学習の時間 『出会い!ふれ合い!セカンドスクール』 飯山市について調べよう	総合的な学習の時間 『出会い!ふれ合い!セカンドスクール』 セカンドスクールをまとめよう			家庭科 『食べて元気!ごはんのみそ汁』 日本の汁物を調べて作ろう	国語科 『グラフや表を用いて書こう』 社会生活に関わる資料を調べ、意見文を書こう	社会科 『環境を守るわたしたち』 日本の公害について調べよう	総合的な学習の時間 『飯山からの贈りもの』 新たに設定した課題を見直して、調べ、まとめよう	総合的な学習の時間 『飯山からの贈りもの』 身近な環境問題について調べ、解決策を考えよう	
6年	読みたい			国語科 『本は友達』 心に残っている本を推薦しよう			国語科 『やまなし』 同じ作者の作品を読みくらべよう				国語科 『海のいのち』 登場人物の生き方を話し合おう	
	調べたい	伝えたい	社会科 『日本の歴史』 歴史について調べ、まとめよう	理科 『物質を見分けよう』 塩と砂糖を見分けよう	理科 『体のつくりとはたらき』 空気や食べ物のゆくえ、血液のはたらきを調べよう	国語科 『未来がよりよくあるために』 未来がよりよくなるためにできることを考え、意見文を書こう。	理科 『水溶液の性質』 水溶液を見分けよう (発展) 指示薬を作ろう!!	社会科 『わたしたちの生活と政治』 政治の働きを知り、自分たちとの関わりを考えよう	社会科 『世界の中の日本』 様々な国や国際機関を調べ、日本の役割を考えよう	理科 『地球環境を守る』 環境を守る取り組みについて調べよう		

環境整備

読書意欲を高めるために

第四小学校には低・中・高学年ごとに「おすすめの50冊」がある。各学年の掲示板上、「おすすめの50冊」とその中で特に教員が勧める本を掲示している。児童は、「おすすめの50冊」の本を読んだらシールを貼ることができるようにした。その結果、人気のある本、まだ読まれていない本が一目瞭然で、次に読む本を選ぶ目安になった。

また、各学年の掲示板上には様々なお話に親しみをもつことができるように物語が迷路になって表されているポスターを掲示した。進む道によっては、本来のお話と内容が変わるため、児童は、友達と一緒に文字を追いつながら、どの道を進むとどのような内容になるのか、その違いや面白さを味わう様子が見られた。

おすすめの50冊の掲示



言葉への興味・関心を広げ理解を深めるために

各学年の掲示板上に「故事成語」「ことわざ」「特別な読み方をする漢字」「漢字の正誤」「MIMの文字とモーラ印のマッチング」などを掲示した。また、階段には「干支」「旧暦月名」「じゅげむ」を掲示した。

児童は、実際に掲示物の答えをさがして確認したり、マジックテープで貼る操作をしたりしていた。階段では、掲示物を読みながら上っていく様子が見られた。

階段の掲示

特別な読み方を
する漢字紹介



言語活動を支える言語指導

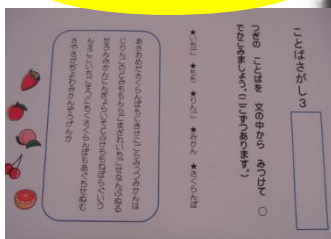
第四小学校には、情緒障害等通級指導学級「はなみずき学級」がある。「はなみずき学級」では、昨年度から通常の学級の低学年に向けて、「特殊音節」を視覚化・動作化しながら学ぶことができるMIM（多層指導モデル）の指導を行っている。また、本年度は中学年に向けて漢字教材の提案も行った。

低学年 MIMによる特殊音節の指導

中学年以上で学習につまずきのある児童は特殊音節を学ぶ段階でつまずいていることが多い。低学年の時に特殊音節を読めるようになることはその後の学習においてとても重要である。そこで低学年の文字指導の底支えとして昨年度からMIMによる特殊音節の指導に取り組んでいる。

- ①平仮名指導が終わった6月に通常の学級の1年生全員に向けて「促音」「長音」「拗(よう)音」「拗長音」を、「手をたたく」「ひねる」「伸ばす」等の動作をしながら読む指導を行う。
- ②全ての指導が終了してから診断テストを行い、標準得点表から小集団で指導をする児童を決めて、昼休みなどに取り出し指導を行っている。
- ③2年生も継続して行っている。

小集団用教材



全体指導の様子

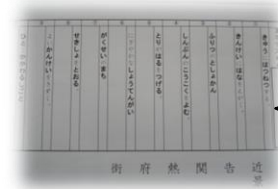


中学年 漢字教材の提案

漢字を書くとき、人は脳内で次のような認知の行程をたどる。例えば、「曜」という漢字を書く場合、「(よう)という文字を見る」「曜・用・様など(よう)と読む漢字をいくつか想起する」「想起した漢字の中から取捨選択する」「(日)(ヨ)というように形の区別をする」「正しく書くよう脳から手に伝える」これらの行程をたどり初めて「曜」という文字を書くことができる。これらのうち、見え方に特徴があったり、どこかの認知が弱かったり、上手くつながらなかったりすると、正しい漢字を書くことができなくなる。このような場合、選択肢があることによって、正しい漢字を選ぶことができる。そこで、新出漢字が最も多い中学年に向けて選択肢がある漢字学習の教材を提案した。

上記以外にも、絵と漢字が提示されている「漢字カルタ」漢字の一部に同じ文字が入っていると似た読みになることが分かる「形声文字カルタ」の教材を提案した。これらは、授業の隙間時間などに活用している。

新出漢字の選択肢があるミニ漢字テスト



研究の成果と課題



研究の成果

- ・『読書記録カード』や『四小おすすめの50冊』の活用や読書旬間の取組内容を工夫することで、これまで読むことのなかったジャンルの本を読んだり、たくさんの本を読もうとしたりする児童の姿が見られるようになった。
- ・多様な教科・領域で図書資料を活用した学習を設定することで、児童自身が目的意識を明確にもち、必要な資料、情報を適切に探し出すことができるようになった。
- ・伝えたい内容や伝えるべき内容を精選し、図書資料の情報を根拠とすることで児童が自信をもって表現することができるようになった。
- ・学校図書館サポーターとの連携を密にし、学校図書館経営の充実を図ることができ、児童の学習意欲や内容理解を深めることができた。



研究の課題

- ・問題解決能力を高め、主体的に学び合う児童の育成のために、単元の指導計画や『情報カード』のより効果的な活用方法について検討する。
- ・更に積極的に読書活動に取り組む児童を育てるために、児童の読書傾向を分析し、児童の実態に応じた本を薦めるなどの支援を行う。
- ・これまで使用してきた図書資料のリストや文書資料をいつでも活用できるように整理し、学校図書館で一括管理することで、学校図書館や図書資料を活用した授業の一層の充実を図る。
- ・児童の情報リテラシー育成のために、図書資料だけでなくデジタルデータも効率的に活用できるように、校内LANなどの整備に努め、学校図書館の情報ステーション化を進める。

おわりに

副校長 本橋 忠旗

「並行読書」や「ブックトーク」という活動について、本研究に携わるようになってから理解を深めることができました。また、それを授業の中に位置付けていくということは、私にとって未経験のことでもありました。

これまで学校図書館の活用といえば、週一回図書の日に行く、調べ学習の時に使う本を借りる場所しかありませんでした。しかし、研究を進めていく中で「もっとおもしろいことは出来ないか」「もっと他の活用方法はないか」という各分科会での話を聞く中で分かったことがあります。それは、自分の意見に根拠をもたせる場所、ある作者の関連図書を知り読書の幅を広げる場所、調べ方を知る場所として活用できるということです。その結果、子供たちはたくさんの本に出会い、言葉に対する感覚が磨かれ、自分の考えたこと、感じたことを人に伝えたいという意欲的な態度が見られるようになりました。

そして何よりも、研究テーマの実現に向けて教職員が一丸となって知恵を出し合い、真剣な眼差しで指導案検討をする姿をみて、チームワークの高まりを感じました。この2年間の積み重ねは、私たち教職員にとっても大きな財産となりました。このような貴重な機会を与えていただいたことに感謝いたします。

最後になりましたが、本研究を進めるにあたり、大変多くの先生方から御指導や御助言をいただきました。ここに改めて御礼申し上げます。ありがとうございました。

御指導いただいた先生方

帝京大学	教授	鎌田和宏先生
文部科学省初等中等教育局教育課程課	教科調査官	水戸部修治先生
武蔵野市立中央図書館		前田奈緒子氏
		後藤千春氏

研究に携わった教職員

平成27年度

校長	河村 祐好	◎主任教諭・5-2	山口 武志
副校長	本橋 忠旗	教諭・6-2	根本 友葵子
○主幹教諭・6-1	秋間 正明	○主任教諭・はなみずき	前田 希久子
主幹教諭・2-1	江見 みどり	主任教諭・はなみずき	井上 薫
主任教諭・1-1	福原 陽一	主任教諭・はなみずき	米内山 美紀
教諭・1-2	寺石 麻佑	教諭・はなみずき	手嶋 理絵
教諭・2-2	藤代 千哉	教諭・はなみずき	渡邊 悟司
○教諭・2-3	秋山 里紗	教諭・はなみずき	石田 恵理
教諭・3-1	高久 悠	主任教諭・音楽	丸森 菜穂
○主任教諭・3-2	藤村 由佳	○教諭・図画工作	岩崎 裕
教諭・4-1	田邊 結	教諭・算数習熟度別	山中 奈津美
教諭・4-2	武井 麗生	主任養護教諭・養護	村上 尚子
教諭・5-1	前川 遥	学校図書館サポーター	三十尾 美英子

研究主任…◎ 研究推進委員…○

平成26年度

副校長	村松 良臣	主任教諭	鈴木 淑子
-----	-------	------	-------